



旅で出会った「人の優しさ」

先日お休みを頂き、ドイツとフランスを訪れる機会がありました。初めて見る景色や文化に触れながら、たくさんの人の優しさにも出会うことができました。

ドイツで電車で乗ろうとしたとき、ベビーカーと荷物を抱えて戸惑っていた私たちに、見知らぬ方が自然に声をかけてくれました。ベビーカーを持ち上げ、乗車を手伝ってくださったのです。ほかに、子どもに食べ物を分けてくれる方がいたり、入国審査で順番を待っていると、子ども連れだからと先に案内してもらったりすることもありました。一つひとつは小さな出来事かもしれませんが、慣れない場所で不安を感じていた私たちにとって、その優しさはとてもありがたく、心に残りました。子どもがいることを特別なこととしてではなく、そこにいる一人の人として、自然に受け入れてもらえたように感じました。他にもケルン大聖堂にも足を運びました。その大きさや高さ、細やかな装飾に驚いたことはもちろん、何百年もの間、大切に守られてきたことにも心を動かされました。中では、静かに祈りを捧げる人の姿も見られました。私はクリスチャンではありませんが、その場所に立つことで、教会や祈りが、人々の暮らしの中に自然に根づいているのだと感じました。



パリでは、また違った経験をしました。初めて見る街、初めて乗る交通機関。そして、何より言葉がなかなか通じません。そんな中、「Japanese?」と声をかけられ、少しだけ日本語で話してくれた方がいました。ほんの少し日本語を話してただけなのに、とても嬉しく、ほっとした気持ちになりました。言葉が少し通じるだけで、相手をぐっと身近に感じられることがあるのだと思いました。この経験は、子どもたちとの関わりにもつながっているように感じます。

子どもたちは、まだ自分の思いを言葉で十分に伝えられないことがあります。それでも、表情や仕草、声、視線、行動を通して、「伝えたい」「分かってほしい」という思いを一生懸命に届けています。大人はつい、言葉を中心に子どもを理解しようとしてしまいます。でも、自分自身が「伝わらない」経験をしたことで、言葉にならない思いにも目を向け、子どもが何を伝えようとしているのかをゆっくり考えることの大切さを改めて感じました。

今回の旅では、たくさんの「初めて」に出会いました。分からないことや、うまく伝えられないこともありました。だからこそ、誰かがそっと手を差し伸べてくれることや、分かろうとしてくれることが、とても嬉しく感じられたのだと思います。子どもたちも毎日、たくさんの「初めて」に出会っています。私たち大人にとっては当たり前のことでも、子どもたちにとっては、初めて見るもの、触れるもの、感じることばかりです。だからこそ、「教えてあげる」だけではなく、子どもと一緒に「なんだろう」「やってみよう」と立ち止まり、その発見を楽しめる大人でありたいと思います。今回の旅で感じた人の優しさや、人と人がつながる温かさを、これからの保育にも大切に生かしていきたいと思います。



最後に、今回の旅は、ドイツに住む妹が声をかけてくれたことがきっかけでした。妹のおかげで、40歳の節目でたくさんの景色や文化に触れ、さまざまな人の優しさに出会うことができました。

記： にじ組 寺神 達也

《今月のおすすめ》

今回の旅行ではたくさん歩きました。疲れた足に「on」のスニーカーです。普段、あまり自分からスニーカーを買わない妻が試し履きをして即買いしていました。色々な種類があるので僕も購入検討中です！履いている方いましたら、ぜひおすすめモデル教えてください。ちなみにフランスでは入店するのも並んでいました。

https://www.on.com/ja-jp/?srsltid=AU7gw4UeCCqc-5sf_uZ8RqkUjoN0-tvIwqq7ZmZRetjzg61L0r902Wqp